

出張報告書

令和 1 年 8 月 12 日

会派名 志誠会
会長 立崎 聡一 様

出張者氏名 近藤 憲治 

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和1年8月8日(木) ~ 令和1年8月9日(金) [2日間]						
出張概要	①	月日	8月8、9日	市町村名	横手市	会場	秋田県横手市一帯
		目的	全国若手市議会議員の会 研修				
		テーマ	・秋田県横手市の地域活性化の取り組みについて視察とヒアリング				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的	移動日				
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

全国若手市議会議員の会 研修（秋田県横手市）

全国若手市議会議員の会の全国研修会で秋田県横手市を訪れ、同世代の議員同士での意見交換会のほか、横手市増田まんが美術館（横手市増田町増田字新町285）での「横手市増田まんが美術館におけるデジタルアーカイブ化による原画保存」や内蔵のある増田のまちなみ（重要伝統的建造物群保存地区）の視察を行った。意見交換では、東京オリンピック・パラリンピック後の地域の在り方や、若手市議会議員だからこそ向き合うべきミッションについて多くのやり取りがあった。翌日の増田まんが美術館は、漫画「釣りキチ三平」の作者・矢口高雄氏が同地出身であったことから1995年10月、我が国で初めてまんがをテーマにした美術館として開館した。当施設が特筆すべきは、単なる「漫画を集めた場所」ではなく、漫画の原画を美術作品として捉え、適切な保存を含めて美術館として運営がされている点である。そのため、担当は教育委員会の社会教育部門であり原画の保存に関しての機能の充実が図られている。特に原画の保存に関しては、1枚ずつ保管スペースが区切られており、温度や湿度の管理も徹底され、まさに美術品としての扱いであった。担当者によると、こういった徹底した取り組みが評価され、漫画家の側から「増田のまんが美術館であれば寄贈しても良い」「ぜひ保管して欲しい」という話が出るレベルになっているとのこと。集客のための題目だけの施設ではなく、クオリティをきちんと確保しているからこそ、来観客の満足度も高く、施設としての評価も安定していることに感服した。引き続き、市町村合併により2005年に横手市となった旧増田町地区の中心部の町並み保存地区の視察を行った。この街並みは「蔵しっくロード」の名がつけられ、外観からは見ることも出来ない「内蔵（うちぐら）」が多く残されていることが特徴とのであった。物流の拠点として増田が栄えた時期、財を成した実業家が競って建てたのが、内蔵であり、豪雪に耐えるための知恵と呼ばれている。そういった旧家屋の建造物を保存し、その栄華を後世に発信することで観光振興を図ろうと努力を重ねられている様子がひしひしと伝わってきた。まち歩きガイドの育成やちょっと立ち寄り、休憩したり、御茶を飲むことのできるカフェや売店、案内所の設置等、街並みを眺めて終わるのではなく、消費を促そうという意欲があり、網走の商店街を観光スポット化するにあたり、参考になる視点を得ることが出来た。